

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和4年8月31日（水）

2 確認箇所

Dタンクエリア

3 確認項目

- (1) Dタンクエリアの地震計の設置場所見直し状況
- (2) Dタンクエリアにおける濃縮廃液の保管状況

4 確認結果の概要

- (1) Dタンクエリアの地震計の設置場所見直し状況について

令和3年2月13日に発生した福島県沖地震を踏まえてタンクエリア（Dタンクエリア、H4北タンクエリア、K4タンクエリア）に設置された地震計については、本年3月16日に発生した地震の際に一部で他地点と比べて特異な測定値を示したことなどがあり、原子力規制庁からタンク接地面の地震動が適切に把握できるように設置場所の見直しを求められていた。

東京電力では、8月完了予定で地震計の設置場所の見直しを検討していたことから、今回はDタンクエリアの地震計の状況を確認した。

（図1）（前回確認日：令和3年8月6日（地震計設置状況））

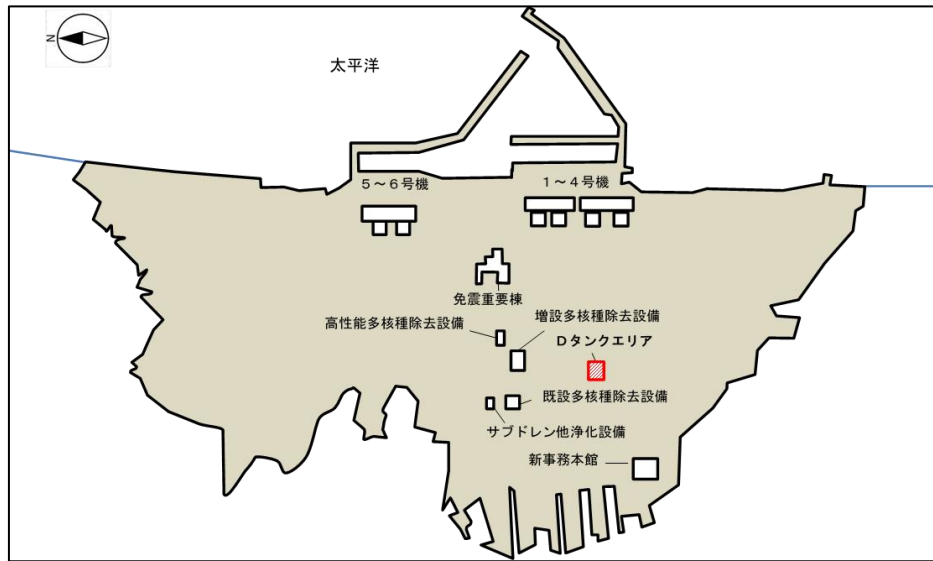
- ・ Dタンクエリアの南東側の内堰内に構築されたコンクリート基礎（縦1.2m×横1.2m×高さ1.1m）上に、新たな地震計が設置されていた。

（写真1）

- ・ 既存の地震計では地震計に近接して設置されていた太陽光パネルは、地震計の設置場所と離れた外堰内に設置されていた。（写真2）

- ・ 内堰外面に固定したコンクリート基礎上に設置されていた既存の地震計は残置されていたが、太陽光パネルは取り外されていた。

（写真3）



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図

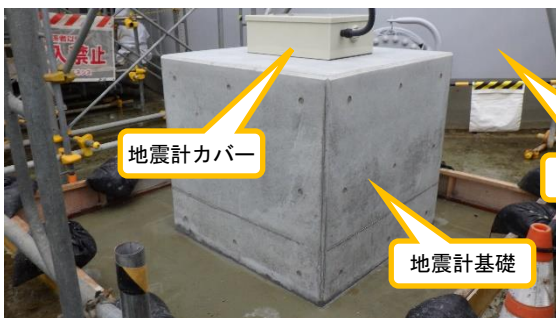


(写真1-1)

新地震計設置場所の状況

(Dタンクエリア南東側を東側から撮影)

※緑色のメッシュカバー内側の赤点線矢印の場所が地震計設置場所



(写真1-2)

新地震計の設置状況

(南東側から撮影)

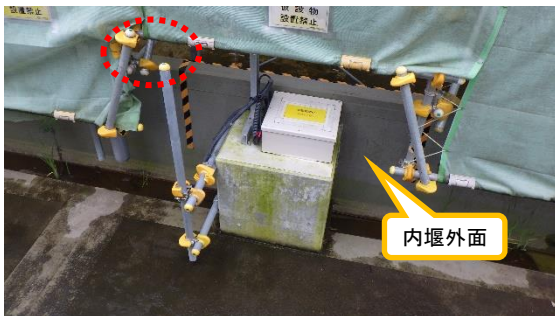
地震計カバー

RO処理水貯留タンク

地震計基礎



(写真2)
新地震計の太陽光パネルの設置状況
(エリア東側を南側から撮影)



(写真3)
既設地震計の状況
(エリア東側中央部を東側から撮影)
※赤点線部分に太陽光パネルが設置されていた

(2) Dタンクエリアにおける濃縮廃液の保管状況について

事故直後にRO濃縮水の淡水化处理に利用していた蒸発濃縮装置から発生した濃縮廃液（濃縮水＋沈殿物（炭酸塩スラリー））は、H2タンクエリアの鋼製横置きタンクで沈殿物（炭酸塩スラリー）が、Dタンクエリアの溶接型タンクの一部で濃縮水が保管されている。令和4年8月24日にはH2タンクエリアの現況を確認しているが、今回はDタンクエリアで濃縮廃液（濃縮水）を保管している溶接型タンクの現況を確認した。

(図1) (前回確認日：令和3年2月8日)

- ・Dタンクエリアには41基の溶接型タンクが設置されており、濃縮廃液は、他のタンクと鋼製堰により区画されたエリア西側の10基のタンクに貯留されている。(写真4)
- ・令和3年2月13日及び令和4年3月16日の地震によりタンクの位置ずれが確認されており、堰床面の被覆膜の剥がれや捲れが認められたが、確認した範囲ではタンクの破損や鋼製堰の破損は認められなかった。(写真5)
- ・全ての連結管で保温材が外されており、弁は「全閉」状態で施錠管理され操作禁止札が付けられていた。確認した範囲では連結管の著しい変位や連結管からの漏えいは認められなかった。(写真6)
- ・一部の連結管の周囲がビニールハウスで養生されていた。(写真7)



(写真4-1)
Dタンクエリア濃縮廃液貯留タンク群の概観（北西側から撮影）



(写真4-2)
濃縮廃液貯留タンクと他のタンク群との区画の状況



(写真5)
堰床面被覆膜の状況



(写真6)
濃縮廃液貯留タンクの連結管の状況の例



(写真7)
連結管及び周囲のビニールハウスによる養生の状況

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。